

2. 温もりのある福祉社会を築こうではありませんか！

(1) 子宮頸がんワクチン接種の勧奨中止について！

平成 25 年 5 月に、希望された女性と市内 4 中学校の女子生徒 243 人が、一回目の集団接種を受けました。然しその後、突如接種は勧奨中止され 4 年が経ちます。

女性の百人に一人が生涯のいずれかの時点で、子宮頸がんにかかるとのされたことです。ワクチンの安全性が高められ、有効性がある接種の再開が一日も早く叶うことを願って、これからも議会で国の責任追及を取り上げてまいります。

(2) 子ども・高齢者の貧困は政治の責任です！

全国の児童・生徒の 6 人に 1 人が一日一食しか食べていない。」との衝撃的な調査結果です。この数値は須坂市でも十分予想されます。子どもの将来がその生まれ育った環境によって、左右される社会を許してはなりません。

高齢者の貧困は、国民年金支給額では食費さえも俔ならない実情です。これは政府が、国民年金積立者の老後の年金受給権利を剥奪して、勤労者の基礎年金に汲み込んだ大罪を犯したと言えます。国民年金を基礎年金に汲み込んだ分、国民年金は実質ゼロ価値となり、厚生年金は一律に国民年金分嵩上げされたと考えます。政府は国民年金の基礎年金組み入れたことによる、新たに生じた高齢者の貧困者を「生活保護」措置での解決ではなく、抜本的に少額国民年金の救済を為し、貧困高齢者の生存権の確保を図る政策を牛出すべきと考えます。

これらの課題に、市は積極的に実態を調査して福祉課等との複合的な連携で社会的弱者を守るべき発言を今後も声を大にして訴え続け改善策を提案します。